**２０２３年７月30日(土)　ほんまち町屋館会場**

 山西雅子

 アトリエに遺る絵筆の穂の涼し 大塚次郎

 扇子はたはた柱時計が刻を告ぐ 飛田小馬々

 山道に迷ひて白昼のダリア 上村敦子

〇 稲花を抱き亭午を直立す こしだまほ

 田水沸く中に生きとし生けるもの こしだまほ

 上村敦子

 ソーラーパネル万緑に黒き穴 河西志帆

 目の前を蜥蜴無音のワンカット 大塚次郎

 側溝の音は小諸の山清水 伊藤修文

〇 竹節虫の軒にあつまる極暑かな 山西雅子

 蟬声のふりそそぐなり氷室跡 山西雅子

 青木順子

 山道に迷ひて白昼のダリア 上村敦子

 影踏みや集まる影に水を打つ 河西志帆

 稲花を抱き亭午を直立す こしだまほ

 炎天の菊畑守るただ一人 山西雅子

〇 仏具めくダリアの蕾てかてかと 飛田小馬々

 伊藤修文

 人恋ひて枝離れたか青胡桃 青木順子

 扇子はたはた柱時計が刻を告ぐ 飛田小馬々

 田水沸く中に生きとし生けるもの こしだまほ

 後ろ髪引く改札に並ぶ瓜 河西志帆

〇 清流に萍ひとつづつ解かれ 上村敦子

 伊藤　政

 日盛の石垣の隙何かゐる 大塚次郎

 空蟬の数へ始めてきりもなし 飛田小馬々

〇 目の前を蜥蜴無音のワンカット 大塚次郎

 烏瓜魔法のやうに花開く 大塚次郎

 日盛や流れを常に与良の道 こしだまほ

 こしだまほ

 竹節虫の横揺れをしてゐて止まる 山西雅子

 禅寺にくしやくしやと咲く烏瓜 飛田小馬々

 スーパーの匂ひ届かぬ鰻買ふ 青木順子

 金網をすり抜けすり抜け夏の蝶 木山靖史

〇 側溝の音は小諸の山清水 伊藤修文

 木山靖史

 田水沸く中に生きとし生けるもの こしだまほ

 目の前を蜥蜴無音のワンカット 大塚次郎

 油照ドクターヘリの揺らめいて 青木順子

〇 日盛の石垣の隙何かゐる 大塚次郎

 空蟬の数へ始めてきりもなし 飛田小馬々

 萩原陽里

 汗を嗅ぐ誰にも見られないように 河西志帆

 仏具めくダリアの蕾てかてかと 飛田小馬々

 アトリエに遺る絵筆の穂の涼し 大塚次郎

 田水沸く中に生きとし生けるもの こしだまほ

〇 清流に萍ひとつづつ解かれ 上村敦子

 飛田小馬々

 涼しさや蜂蜜色の影を連れ 河西志帆

〇 炎天の小諸なれども水あまた 伊藤　政

 影踏や集まる影に水を打つ 河西志帆

 側溝の音は小諸の山清水 伊藤修文

 油照ドクターヘリの揺らめいて 青木順子

 大塚次郎

〇 仏具めくダリアの蕾てかてかと 飛田小馬々

 汗を噴き汗を拭きつつ虚子旧居 伊藤修文

 涼しさを乗せて二両の小海線 萩原陽里

 油照ドクターヘリの揺らめいて 青木順子

 想はざる百日草のいきれなり 上村敦子

 河西志帆

〇 日盛の石垣の隙何かゐる 大塚次郎

 鍵つ子さ兄との記憶のむぎこがし 木山靖史

 青栗の棘やはらかし握れざる 上村敦子

 吾の影のただ丸くあり日の盛り 青木順子

 清流に萍ひとつづつ解かれ 上村敦子